

第9章で線積分 学んだ → 力学に應用・適用

★ 運動方程式

$$m \frac{d^2 \mathbf{r}}{dt^2} = \mathbf{F}$$

を線積分する

$$\int_C m \frac{d^2 \mathbf{r}}{dt^2} \cdot d\mathbf{r} = \int_C \mathbf{F} \cdot d\mathbf{r}$$

↓
変形すると

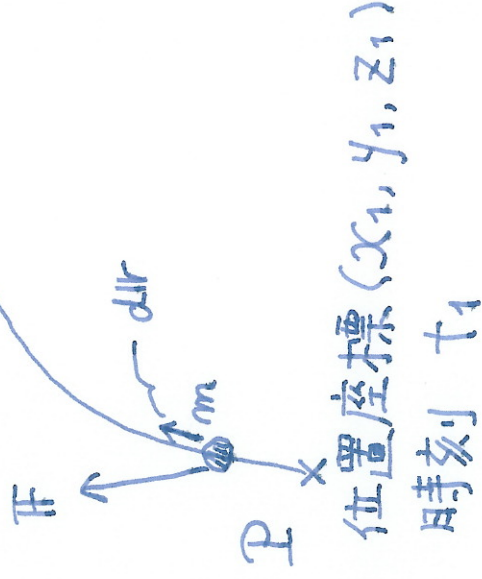
仕事: W

$$\frac{1}{2} m v^2(t_2) - \frac{1}{2} m v^2(t_1)$$

$T \equiv \frac{1}{2} m v^2$: 運動エネルギー

$$T(t_2) - T(t_1) = W$$

$Q(x_2, y_2, z_2)$
 t_2
経路 C



★もし力 F が スカラー関数 $U(x, y, z)$ の勾配として書ける

{位置の関数

U : ポテンシャル (位置エネルギー)

$F = -\nabla U$ 保存力

とき.

$W = \int_c F \cdot dr = -U(x_2, y_2, z_2) + U(x_1, y_1, z_1)$

ポテンシャルの差.

以上をまとめると

$T(t_2) - T(t_1) = -U(x_2, y_2, z_2) + U(x_1, y_1, z_1)$

又は

$T(t_2) + U(x_2, y_2, z_2) = T(t_1) + U(x_1, y_1, z_1)$

$T+U$: 力学的エネルギー

} 力学的エネルギー保存則を表現している.

今日の話: エネルギー保存則の別の導出方法.

線積分と使用ない.

こちらの方法がより広く用いられる.

とのための準備 (ポテンシャルに関する補足).

1. ポテンシャルの不定性.

ポテンシャルは力 F から導びかかれ、 F と

$$F = -\nabla U$$

の関係さめたす.

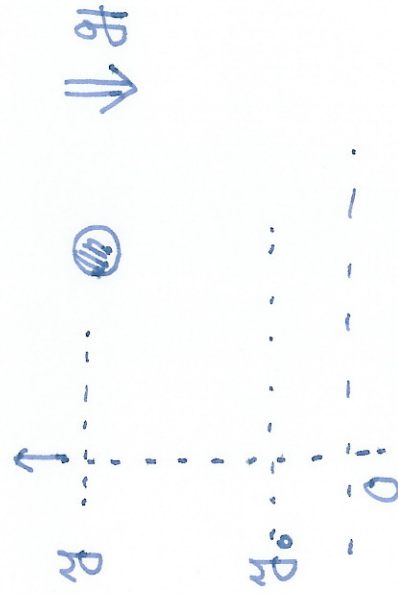
あるポテンシャルに U_0 という定数を足したものを

新しく $U' \equiv U + U_0$ と定義

$$\begin{aligned}
-\nabla U' &= -\nabla(U + U_0) = -\nabla U - \nabla U_0 \\
&= -\nabla U = F.
\end{aligned}$$

U' から U からも同じ力 F が作られる.

ある基準を決めて(場所) $U=0$ と定める.



例

質点の位置エネルギー (ポテンシャル) $mg y$... $y=0$ を基準
 $mg(y-y_0)$ $y=y_0$ を基準

2. ポテンシャルの微分 (時間微分)

$U(x, y, z) \rightarrow x, y, z$ を通じて t に依存する.

位置だけの関数 ... 質点の位置は時々刻々変化する

$x(t), y(t), z(t)$

$$\frac{dU}{dt} = \frac{\partial U}{\partial x} \frac{dx}{dt} + \frac{\partial U}{\partial y} \frac{dy}{dt} + \frac{\partial U}{\partial z} \frac{dz}{dt} \quad \leftarrow \star$$

$$= (\nabla U) \cdot \frac{d\mathbf{r}}{dt}$$

$$= \nabla U \cdot \mathbf{v} \quad \dots (10, 15)$$

* 合成関数の微分

5/9

$$f = f(g), \quad g = g(t).$$

$$\frac{df}{dt} = \frac{df}{dg} \cdot \frac{dg}{dt}$$

多変数関数に拡張したものが上記

自習 →

10.4 具体例 ... 線積分を使って、一様な重力場中の物体の運動、バネにつながれた物体の運動について エネルギー保存則を導く。

10.5 エネルギー保存則の別の導出方法.

10.5.1. 一般論.

議論の出发点.

運動方程式 (力はポテンシャルから導ける: 保力の場合)

$$m \frac{d^2 r}{dt^2} = - \nabla U \quad \dots (10.18)$$

(10.18) と $\frac{dr}{dt}$ (= v : 速度) との内積を計算する.

$$m \frac{d^2 r}{dt^2} \cdot \frac{dr}{dt} = - \nabla U \cdot \frac{dr}{dt}$$

6/9

(左辺) = $\frac{d}{dt} \left\{ \frac{1}{2} m \left(\frac{dr}{dt} \right)^2 \right\}$ となる

= $\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v^2 \right)$ とも書ける

正確かめる $\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v \cdot v \right) = \frac{1}{2} m \frac{dv}{dt} \cdot v + \frac{1}{2} m v \cdot \frac{dv}{dt}$

運動エネルギー = $m \frac{dv}{dt} \cdot v$

= $m \frac{d^2 r}{dt^2} \cdot \frac{dr}{dt}$

(右辺) = $-\frac{dU}{dt}$... (10.15) より

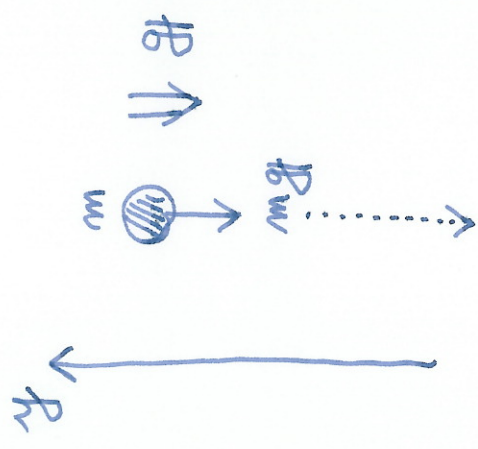
まとめると $\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v^2 \right) = -\frac{dU}{dt}$

又は $\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v^2 + U \right) = 0$... (10.21)

運動エネルギーとポテンシャルの和は時間に依存しない
定数である。 ... 力学的エネルギー保存則になっている。

10.5.2 具体例 1.

一様な重力場中. 自由落下.



位置ベクトル $\mathbf{r} = y \mathbf{j}$ 表

物体に働く力 $\mathbf{F} = -mg \mathbf{j}$

このときの速度

$$\mathbf{v} = \frac{dy}{dt} \mathbf{j} = v_y \mathbf{j}.$$

運動方程式

$$m \frac{d^2y}{dt^2} \mathbf{j} = -mg \mathbf{j} \quad \dots (10.22)$$

(10.22) と \mathbf{v} との内積を計算する

$$m \frac{d^2y}{dt^2} \mathbf{j} \cdot \frac{dy}{dt} \mathbf{j} = -mg \mathbf{j} \cdot \frac{dy}{dt} \mathbf{j}$$

$$m \frac{d^2y}{dt^2} \frac{dy}{dt} = -mg \frac{dy}{dt}$$

$$\frac{d}{dt} \left\{ \frac{1}{2} m \left(\frac{dy}{dt} \right)^2 \right\} = \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v_y^2 \right) = - \frac{d}{dt} (mgy)$$

まとめると

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m v_y^2 + mgy \right) = 0.$$

運動エネルギー $-\frac{1}{2}mv_y^2$ と ポテンシャル $mg y$ ($y=0$ でポテンシャル 0) 8/9

の和が時間によらない定数である。

10.5.3 バネにつながれた物体の運動

位置ベクトル

$$r = x \hat{i}$$

物体に働く力 (バネの復元力)

$$F = -kx \hat{i}$$

速度 $v = \frac{dx}{dt} \hat{i} = v_x \hat{i}$

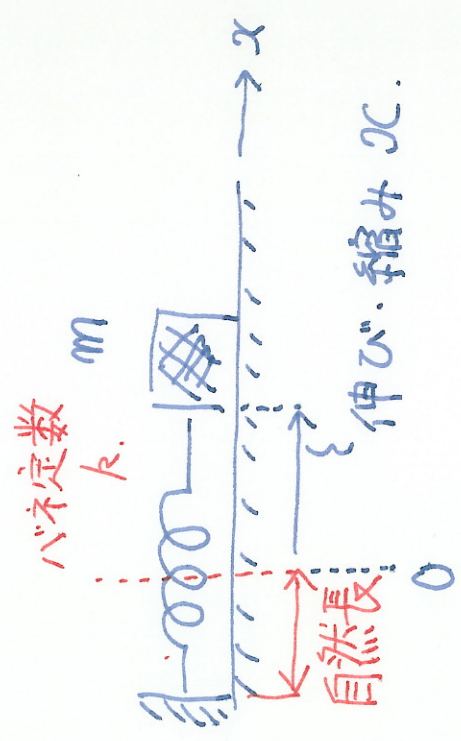
運動方程式

$$m \frac{d^2x}{dt^2} \hat{i} = -kx \hat{i} \quad \dots \quad (10.25)$$

(10.25) と v との内積を計算する

$$m \frac{d^2x}{dt^2} \hat{i} \cdot \frac{dx}{dt} \hat{i} = -kx \hat{i} \cdot \frac{dx}{dt} \hat{i}$$

$$m \frac{d^2x}{dt^2} \frac{dx}{dt} = -kx \frac{dx}{dt}$$



$$(左辺) = m \frac{dV_x}{dt} V_x = \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m V_x^2 \right)$$

運動エネルギー

$$(右辺) = -k \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} x^2 \right) = -\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} k x^2 \right)$$

以上まとめると

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m V_x^2 \right) = -\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} k x^2 \right)$$

又は

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} m V_x^2 + \frac{1}{2} k x^2 \right) = 0$$

運動エネルギー $\frac{1}{2} m V_x^2$ とポテンシャル $\frac{1}{2} k x^2$

($x=0$: 自然長 のときポテンシャル0) との和が 時間に

依存しない定数である。